



元町3丁目にあった創業当時の建物(写真上)と店内(写真下)

明治二年、横浜のイギリス人カペルが神戸の居留地16番地で洋服商を開業。洋服の調整はもとより、西洋の服装旅具一切の品々を扱っていた。後にイギリス人スキップ・ウォーズ&ハモンド商會を設立。子供服、婦人服、紳士服の仕立てを始めた。彼らに学んだ日本人技術者たちは、神戸に洋服調整技術を定着させる動きを始めた。なかでも、とりわけ時代の先見性を見据えて、早くから着目した一人の男がいた。名前は柴田音吉。彼は「これからは洋服の時代」とイギリス人カペルについて修業。明治十六年、日本人初の注文洋服店を元町三丁目で開催した。彼が作る洋服は、師であるカペルの流れをくむと同時に、極上の服地をたっ



初代柴田音吉、完全主義者でより高い技術を追及した

り使用。丁寧な仕立てとゆつたりとした着心地の良さでたちまち評判を呼んだ。とくに、伊藤博文は、柴田洋服店の服を愛用、また柴田音吉には明治天皇に拝謁しただけで、立派に明治天皇の服を仕立て上げたというエピソードもある。現在は、四代目・柴田音吉が平成二年に襲名。初代の伝統技術を守りながらもグループ九社を有すトータル・ファッションの輸入商社として、躍進し続けている。



テーラ

明治十六年
柴田音吉洋服店